様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月　 ７ 日現在

機関番号：１２６０３
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2012～2015
課題番号：２４３２０１０２

研究課題名（和文）多言語コーパスの構築と言語教育への応用可能性

研究課題名（英文）Construction of multilingual corpus and its application to language education

研究代表者
川口　裕司（Kawaguchi, Yuji）

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：２０２０４７０３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,100,000円

研究成果の概要（和文）：研究期間を通して継続的に話し言葉を現地収録した。フランス語、スペイン語、トルコ語では、母音、受動表現、談話標識等に関する研究を行った。ラオ語では文学作品6編、クメール語では随筆と日常会話をコーパス化し、機能語の分析が行われた。英語では日本人英語学習者におけるプロソディーの学習過程と、学習レベルを評価する指標の分析が行われた。他方、学習者言語における流暢さ・自然さ・語用論的な適切さに貢献する言語特性について研究した。日本語は学習者の作文データを収集し、データ分析を通じて日本語教育への応用可能性を検討した。他の科研との共催で、海外協力者による講演・ワークショップ等を計9回開催した。

研究成果の概要（英文）：Throughout the research period, spoken languages were continuously recorded and transcribed. In French, Spanish and Turkish, several studies were produced on vowels, passive construction, discourse markers, etc. We built a corpus of six modern literary works in Lao and that of essays and everyday conversations in Khmer. Analysis of function words in both languages was carried out and the use of corpus as learning materials has been examined. In Japanese, written data was continuously collected and its applicability to Japanese education was explored. For English, the learning process of prosody by Japanese learners and cues for evaluating the learning level have been analyzed. We also studied some language characteristics that contribute to fluency, naturalness, and pragmatic adequacy in learner language. Finally, in collaboration with other scientific research projects, we held nine workshops and lectures by collaborators overseas.

研究分野：フランス語学，トルコ語学

キーワード：言語コーパス　学習者言語　言語学　応用言語学

１．研究開始当初の背景

(1) 2006-2010 年度の基盤研究Ａ(課題番号19202015)「多言語話しことばコーパスと学習者言語コーパスの構築に基づく言語運用の研究と教育への応用」の補助金により、話し言葉コーパス、書き言葉コーパス、学習者言語コーパスの構築を行ってきた。

(2) 系統的にも類型的にも異なるヨーロッパの言語（英語、フランス語、スペイン語）とアジアの言語（トルコ語、ラオ語、クメール語、日本語）を対象とし、言語運用をより十全な形で把握した後に、その研究成果を各言語の音声教育、文法教育、語彙教育に新たな視点・示唆として提供する。

２．研究の目的

本研究では基盤研究Ａの研究を継承しつつ、二つの研究目的を設定する。

(1) スペイン語、フランス語、トルコ語、ラオ語、クメール語では、言語コーパスに基づく言語運用データの分析を行い、研究成果の音声教育・文法教育・語彙教育への応用可能性を検討する。

(2) 母語話者データについて多数の研究蓄積を有する英語、日本語では、学習者言語を分析し、母語話者データとの比較対照を行いつつ、研究成果の言語教育への応用可能性を追求する。

３．研究の方法

(1) 基盤研究Ａにおける方法を継承して言語コーパスを拡充した。話し言葉データは、ICレコーダ等で収録し、転写規則に基づいて文字化した。データはコンコーダンサ、統計分析ソフト、音声分析ソフト等を用いて解析した。

(2) 書き言葉データは、細心の注意を払いつつ著作権に問題のない言語資料を選別し、それらをデジタル化した。クメール語とラオ語では、データベースの検索方法についても検討した。

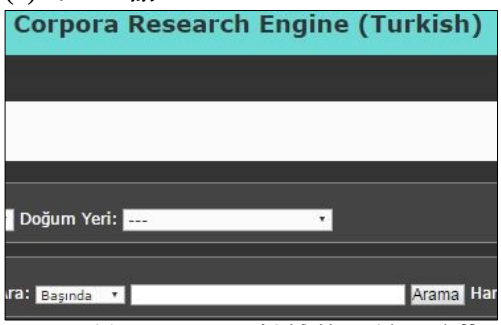
(3) 本研究では複数の言語について言語コーパスを構築するため、海外研究機関との連携が不可欠である。フランス語はパリ第３大学、トルコ語はマルマラ大学、ラオ語はラオス国立大学の協力を得つつ研究を実施することができた。

４．研究成果

(1) フランス語、スペイン語

フランス語は、継続的に話し言葉の現地収録を行った。構築されたコーパスはフランスの研究プロジェクト ORFEO にデータ提供された（〔その他〕の項を参照）。同コーパスを利用し、母音、口蓋化現象、否定辞等に関する分析を行った。また、母語話者と日本人学習者の文末下降イントネーションを比較し、言語教育的観点を含めた研究報告を行った。スペイン語は、マドリード自治大学とバルセロナ自治大学の研究協力者から、文法研究と方言に関して、コーパス言語学的観点からの助言を受けつつ研究を進めることができた。

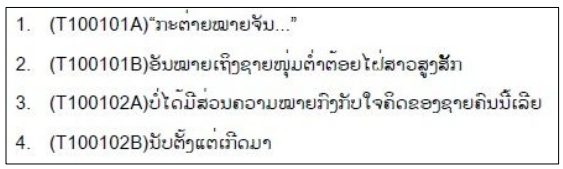
(2) トルコ語



トルコ語においても継続的に話し言葉の現地収録を行った。2015 年度にマルマラ大学の協力者を招聘し、試験的に Transcriber を用いて文字データと音声データを同期させ、幾つかのデータをインターネット上に検索システムとともに公開した(上図、〔その他〕の項を参照)。

(3) ラオ語およびクメール語

ラオ語（下図）では新たに 3.3Mb、クメール語では 20 万字の電子データが構築された。これらのコーパスを基にして、両言語では主に機能語の研究が行われた。



(4) 日本語

日本の大学で学ぶ日本語学習者の作文データを継続的に収集し、コーパスを構築した。2015 年度には『上級学習者の日本語作文データベース 2013-2015 年度版』（右図）と題する CD を作成し、他の研究者が本コーパスを利用できるようにした。また、データ分析の結果を通じて日本語教育への応用可能性も検討した。

(5) 英語

日本人英語学習者のイントネーションについて、同一人物の留学前と後の発音および音声学の授業履修前と後の発音を比較することにより、英語のプロソディーがどのような学習過程を経て身につくのか、また、どのような特徴が学習レベルを評価する指標となりうるのかを分析した。他方、既存の英語学習者のナラティブ・コーパスを拡充し、流暢さ・自然さに影響する要因のうち、語彙選択・定型表現の使用の観点から帰国子女と非帰国子女を比較する言語分析を行った。これにより学習者言語における言語使用の正確さのみならず、流暢さ・自然さ・語用論的な適切さに貢献する言語特性について実証的研究を進めた。

(6) 会議・ワークショップ等

2014 年 11 月に他機関との共催で、「コーパス

言語学とフランス語話し言葉コーパス」に関するワークショップを実施した。最終年度にはパリ第 10 大学に招聘教授として招かれ、コーパス分析と統計的手法を用いた言語研究の利点・課題に関する報告を行った。また、他の科研Ａとの共催により、海外協力者を招聘し、コーパスに基づく談話標識、先進的な外国語教育、言語コーパスの教育への利用、少数言語の諸問題に関するワークショップと講演会を計 9 回実施した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）
〔雑誌論文〕（計３０件）
① TUFS 言語モジュールと言語変異、 川口裕司、 『グローバル・コミュニケーション研究 2』、 2015、 19-41.
② クメール語の文末詞 dae について、 上田広美、 『慶應義塾大学言語文化研究所紀要 47』、 2016、 1-31.
③ Vowel shifts of English, Hiroko Saito, 『グローバル・コミュニケーション研究 2』、 2015、 93-102.
④ Variación gramatical del español: Algunos resultados del Proyecto Varigrama, Toshihiro Takagaki, *Actas del Congreso Internacional sobre el español y la cultura hispánica*, 2014, 248-264.
⑤ 第二言語習得研究に向けた学習者コーパスの開発—『日本語学習者言語コーパス』の開発事例、 海野多枝、 鈴木綾乃、 『外国語教育研究 17』、 2014、 1-19.
⑥ スペイン語受動表現における義務的な <por 動作主句>について、高垣敏博、 『東京外国語大学論集 87』、 2013、 145-168.
⑦ What’s (not) in a corpus?—What to look for in a learner corpus of spoken English, Hiroko Saito, Y.Tono, Y.Kawaguchi, M.Minegishi eds.: *Developmental and Crosslinguistic Perspectives in Learner Corpus Research*, John Benjamins Publishing Company, 2012, 299-308.
⑧ Consciousness-raising in L2 Pragmatics through Project-based Instruction. Asako Yoshitomi,『東京外国語大学論集 85』、2012、 405-429.
⑨ Aix 話し言葉コーパスプロジェクト、 古賀健太郎、秋廣尚恵、川口裕司、 『ふらんぼー37』、 2012、 37-54.

〔学会発表〕（計４０件）
① Functions of *yani* in Spoken Turkish Corpus: In memory of Prof. Şukriye RUHİ, Yuji Kawaguchi, International Workshop: Discourse Markers and Discourse Connectives in Several Languages, 2016 年 1 月 13 日、 東京外国語大学語学研究所.
② Deux programmes de la TUFS: Corpus du français parlé, Modules de langue, Yuji Kawaguchi, 招聘教授による Master 2 講義, 2015 年 9 月 25 日、 パリ第 10 大学-Modyco.
③ A study of "nam" and "kap" in Lao, Reiko Suzuki, 6th Conference on friendship studies between Thai and Lao, 2015 年 9 月 12 日, National University of Laos.
④ Traitement de corpus en turc parlé, Yuji Kawaguchi, Selim Yılmaz, Conférence invitée 招待講演 2014 年 12 月 10 日 INALCO, Paris.
⑤ Three Projects at TUFS : TUFS Language Modules, Multilingual Spoken Language Corpus, Interphology of Contemporay French, Yuji Kawaguchi, The 2nd IWALS 2014, 招待講演、 2014 年 7 月 17 日 臺灣師範大學.
⑥ フランス語の否定辞—通時的分析のために—、 川口裕司、 『外国語と日本語の対照言語学的研究』第 13 回研究会、 2014 年 7 月 12 日 東京外国語大学語学研究所.
⑦ 日本語とスペイン語の属性叙述受動文、高垣敏博、 SELE2014 2014 年 9 月 1 日 ヤマハリゾートつま恋.
⑧ Functional words in Lao, Reiko Suzuki, Conference on friendship studies between Thai and Lao, 2014 年 9 月 20 日 National University of Laos.
⑨ 「の」に対応するラオ語の形, 鈴木玲子, 日本ラオス研究大会、 2013 年 3 月 23 日、 名古屋大学.
⑩ Spoken Turkish Corpus Project, Yuji Kawaguchi, Boğaziçi Linguistic Circle (BLC) Talk 招待講演、 2012 年 10 月 4 日 ボアジチ大学言語学科.

〔図書〕（計８件）
① 『スペイン語学概論』、高垣敏博監修・共著、くろしお出版、2015、 290p.
② 『世界の文字事典』、庄司博史編、川口裕司、他 77 名、丸善出版、2015、431p.
③ 『コミュニカティブな英語教育を考える—日本の教育現場に役立つ理論と実践』、藤田保、海野多枝、他 27 名、アルク、2014、 199p.
④ 『改訂新版　初級英語音声学』、竹林滋、清水あつ子、斎藤弘子、大修館書店、2013、 153p.
⑤ 『フランス語をとらえる　フランス語学の諸問題Ⅳ』、グループ・セメイオン 川口裕司、他 19 名、三修社、2013、309p.
〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ykawa/kakenB2015/KAKENB2012-2015.html (本科研 HP)
http://www.coelang.tufs.ac.jp/multilingual_corpus/tr/corpusSearch/view/ (トルコ語コーパス)
http://www.projet-orfeo.fr/corpus/corpus2 (フランス科学研究プロジェクト ORFEO)

６．研究組織
(1)研究代表者
川口　裕司（KAWAGUCHI Yuji）
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号： 20204703

(2)研究分担者
高垣　敏博（TAKAGAKI Toshihiro）
神奈川大学・外国語学部・特任教授
研究者番号： 00140070

海野　多枝（UMINO Tae）
東京外国語大学・大学院国際日本学研究院・教授
研究者番号： 00251562

斎藤　弘子（SAITO Hiroko）
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号： 10205669

吉冨　朝子（YOSHITOMI Asako）
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号： 40272611

鈴木　玲子（SUZUKI Reiko）
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号： 40282777

上田　広美（UEDA Hiromi）
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授
研究者番号： 60292992

(3)連携研究者
(　　)
研究者番号：